

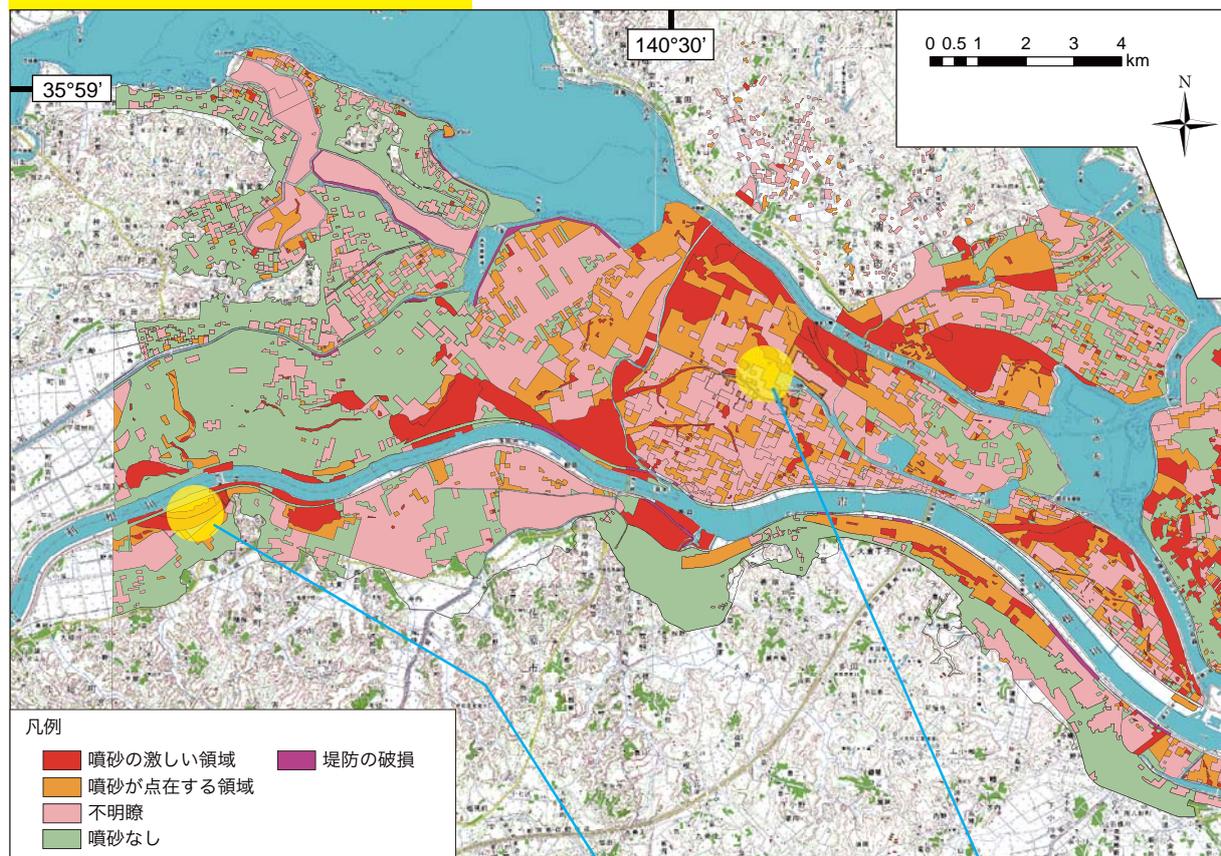
液状化層の調査

■産総研の液状化調査

産総研では2011年東北地方太平洋沖地震による液状化災害を受けて、利根川下流域を対象に液状化マップ作成やトレンチ調査など様々な調査を行ってきました。以前から知られていたことも含めてわかったことは、

- ①液状化は^{しゅんせつち}浚渫地など地盤条件の悪い場所で繰り返し引き起こされてきた(1987年千葉県東方沖地震時と同じ場所で液状化が生じている)
- ②^{ひんさ}噴砂(地下水とともに砂が噴き出す現象)の源は地下数mの人工地層(特に浚渫砂)であることが多い
- ③^{ちゅうせきそう}沖積層が厚い場所で液状化が起こるとは限らないなどです。

利根川下流部の液状化状況



(国土地理院数値地図25000(地図画像)を使用)

トレンチ調査1

(千葉県神崎町の埋め立て地)

トレンチ調査2

(千葉県香取市の埋め立て地)

■トレンチ調査

液状化が地下のどの地層でどのように起きたのか調べるため、上の地図内2ヶ所で地面を矢板で囲い地下水を汲み上げて、幅数~10m深さ2~3m程度の穴(トレンチ)を掘り、地層を観察しました。



■はぎ取り標本の採取

液状化を起こした地層を時間をかけて克明に観察するため、トレンチ壁面の地層のはぎ取り標本を採取します。はぎ取り標本は樹脂で地層を固め、上からさらし布を張り付けて作製します。

